

多様な生徒の主体的な学びを実現するために、基礎学力は繰り返し学習できる教材で定着させる

高梁高校(岡山・県立)

【活用キーワード】 >> 到達度テスト 課題配信 自学自習 反転授業

スタディサプリ活用法

● 生徒たちのスタサブ視聴時間を教室に貼り出し、やる気を喚起

4/10～5/10 スタディサプリ活用状況(第1期)

学年	性別	視聴時間	習熟度別視聴時間
1	男子	22	21
2	女子	16	15
3	男子	13	12
4	女子	13	12
5	女子	12	11
6	女子	10	9
7	男子	9	8
8	女子	8	7
9	女子	7	6
10	男子	6	5
11	女子	6	5
12	男子	7	6
13	女子	7	6
14	女子	6	5
15	男子	6	5
16	女子	4	3
17	女子	7	6
18	男子	6	5
19	女子	6	5
20	男子	5	4

上の表は、導入間もない2019年4月10日～5月10日に、同校3年生がスタサブを視聴した時間。最も視聴時間が多い生徒は、1カ月に21時間18分。視聴時間が最も多いクラスの平均は、4.8時間だ。「将来のために『今』できることをしていきましょう」と遠藤先生の励ましコメントもついている。

● 2020年・大学入試センター試験とスタサブ視聴時間

センター試験の得点	サブリ年間視聴時間(平均)
600点以上	52時間14分
500点以上600点未満	44時間19分
400点以上500点未満	31時間09分

上は、導入1年目の成果。大学入試センター試験(現・大学入学共通テスト)で高得点だった生徒ほど、スタサブの視聴時間が長かった。最も視聴時間が長かった生徒は、年間173時間30分。

● 生徒たちの活用法

数学が苦手なので、1年の時から予習復習に活用していました。コロナで休校になってしまった2年の時は、先生に質問ができなかったので、スタサブで疑問解消ができ、本当に助かりました。動画が1コマ15分程度なので、空き時間を使って勉強できるところがいいです。今は、過去問対策や共通テストなど、受験のための講座を中心に活用しています。(人文系3年生・熊本千夏さん)

1年生の夏休みに古文の文法を集中して勉強したら、読むことがとても楽しくなりました。先生からのアドバイスもあり、英語や漢文も文法を最初に学んでおいたので、その後の勉強がラクになりました。今は数学や英語の復習を休日に。平日は通学前に好きな地産など1講座を視聴しています。これからは受験に特化した対策講座を活用したいです。(理数系3年生・仲田咲希さん)

「天空の城」として有名な備前中松山城の史跡内に建ち、140年の歴史と伝統をもつ高梁高校は、普通科と家政科を有する単位制。希望進路に応じた科目選択が可能で、普通科では2人担任制、少人数指導、習熟度別授業をはじめ、丁寧な指導で難関大進学に力を入れている。

同校がスタディサプリを導入したのは2019年度。進路課長の遠藤 隆先生は、その経緯をこう話す。

「アクティブラーニングをはじめ、思考力、表現力、判断力を育てる指導方法が求められるようになり、多様な学力の生徒が集まる当校において、主体的な学びの基礎となる知識・技術の定着とその構築は、喫緊の課題となりました。基礎学力向上だけでなく上位層もフォローでき、教員の負担が少ない。そんなツールを探して選んだのが、スタディサプリでした」

導入後は全学年で到達度テストを行い、生徒の苦手単元の課題配信をスタート。ただし初年度は、教員もスタサブを学ぶ時間が必要と判断し、3年生を中心に活用。そして1年後、「スタサブの試験の得点が高い」という成果が出た(左表)。

課題
学力が多様化するなかで、主体的な学びの基礎(知識・技術)をどう構築するか

「導入2年目からは、各学年の進路教員2名のうち1名がスタサブ推進担当となり、活用力を入れてきました。到達度テストを行い、基礎学力の定着を図るほか、1年生には中学生英語の講義動画を配信して英文法を自宅で復習させ、授業ではリーディングを鍛えるようにしました。すると、英語が苦手な生徒たちが授業を楽しめるようになってきた。そこで、古文・漢文の教科担当からも『文法はスタサブで一括予習をしておく」と発信をしても

「2年生の担任だった昨年は、1週間の授業のポイントを復習できるように週末課題を配信し、3年生担当の今年度は、ベシックな公式などが抜けている生徒が多いので、受験に向けて学年の弱い部分を週末課題として配信しています。多様な学力の生徒がいても、文法や公式などの基礎知識をスタサブで繰り返し学んで身につける習慣が定着すれば、教員は効率的に教えることができ、新しい授業に取り組んでいける。今後は生徒のレベルに応じた課題を配信し、習熟度別クラスで反転授業などを増やし、考える力を伸ばしていきたいです。これからの授業が楽しみます」と安藤先生。

「導入後は全学年で到達度テストを行い、生徒の苦手単元の課題配信をスタート。ただし初年度は、教員もスタサブを学ぶ時間が必要と判断し、3年生を中心に活用。そして1年後、「スタサブの試験の得点が高い」という成果が出た(左表)。

活用
到達度テスト後の課題配信、文法の「一括予習」で基礎固め。今後は習熟度別反転授業に

度別の古文の授業では、文法の予習が定着しています。「コロナ禍を経験して、生徒たちには主体的に学ぶ心が芽生えたように思います。そしてICTも必要不可欠になった。教育は変化の時ですね」と遠藤先生。

同校でも2021年度からは1年生にタブレットを導入。数学の安藤雅仁先生も、「ようやくスタサブ活用のベースができてきたところ」と話す。

「2年生の担任だった昨年は、1週間の授業のポイントを復習できるように週末課題を配信し、3年生担当の今年度は、ベシックな公式などが抜けている生徒が多いので、受験に向けて学年の弱い部分を週末課題として配信しています。多様な学力の生徒がいても、文法や公式などの基礎知識をスタサブで繰り返し学んで身につける習慣が定着すれば、教員は効率的に教えることができ、新しい授業に取り組んでいける。今後は生徒のレベルに応じた課題を配信し、習熟度別クラスで反転授業などを増やし、考える力を伸ばしていきたいです。これからの授業が楽しみます」と安藤先生。



右・進路課長 遠藤 隆先生(地歴公民)
左・3年副主任 安藤雅仁先生(数学)

School Data

創立1881年／普通科(男女)・家政科(女子)／生徒数：普通科322人(男子163人、女子159人)、家政科(女子88人)進路状況(2021年3月実績)普通科：大学86人、短大4人、専門学校等9人、その他3人 家政科：大学12人、短大7人、専門学校等13人、就職6人、その他1人